

安心できるつながりの中で、自らの学びを楽しみ、新たな価値を生み出す児童の育成
～造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いを表現できる学びの工夫～

6年生 図画工作科

「絵から見えてくること」

先日、今年度第1回目となる授業研究会を行いました。授業研究会では、教職員で各学年の学びの姿を教職員で参観し、研究主題に掲げる子どもたちの姿を育むための方法や環境設定を学びあったり、協議したりしています。今回の Canvas では、6年生で行った図画工作科「絵から見えてくること」の学習の様子についてご紹介します。

使うのはアートカード。アートカードとは、美術作品の画像をプリントしたカードで、主に鑑賞活動に活用していくものです。それを使って「ミニ展覧会を開こう！」というのが今回の学習でした。

まず、たくさんあるカードの中から自分のお気に入りの1枚を選んだ子どもたち。色・形・イメージという視点から、なぜそのカードを選んだのか、自分の言葉で表します。「線対称の形がきれいで好き！」「カラフルな色使いが好き！」等、思いを伝え合う6年生。選ぶカードはそれぞれ違って、選んだ理由も様々ですが、その見方や感じ方を受け止め、認め合える関係が築かれています。京都府総合教育センターの指導主事にも、子どもたちの活発なやりとりと、それを支える子ども同士のつながりをご評価いただきました。



展覧会名を「描く」時の字の大きさ、色、配置…。ここにもたくさんの「思い」が表現されていました！

次に、グループでそれぞれの選んだカードの「共通点」を見つけます。この「共通点」が展覧会のタイトルになるというわけです。事前に職員でも同じ活動を行って見たところ、これがなかなか難しかったのですが、子どもたちの柔軟性と創造性はさすが！学んだ造形的な視点、色・形・イメージを中心にしながら、1つ1つの美術作品をじっくりと鑑賞し、「なるほど！！」と納得できるような「共通点」を見出し、「思い」のあふれる展覧会名を作り上げました。

自分の思いを安心して出し合えるつながりと対話の中で、自分にはない考えがインプットされ、それが「新たな価値を生み出す」ことにつながっていく。そんな姿を今後も目指し、研究を進めていきます。



赤チームは「カラフルワールド」、白チームは「静かからのザワザワ」、青チームは「グラデーションワールド」、そして黄チームは「もよう界！」というタイトル。白チームは、共通点をなかなか1つには絞れず悩んでいましたが、「からの」という言葉を使って視点を広げることで、みんなが納得できるタイトルを生み出すことができました。画用紙に「静か」な絵と「ザワザワ」した絵、そしてどちらの要素も含んだ絵はその間に配置する子どもたち😊自分のイメージを言葉で、絵や形で表現する。こんな活動を今後も積み重ねていきたいです！

子どもたちの振り返りより

- 自分の選んだ作品以外にも、チームのみんなの作品にも感想が持てたので良かったです。絵の中の共通点を見つけるのは難しかったけど、チームの意見を交えて考えられたので良かったです。
- わたしは、ミニ展覧会で共通点を見つけるのは難しかったけど、イメージでつながられたし、他のチームのも予想外のところに目を向けていておもしろいと思いました。
- 絵の共通点を見つけるには、絵をじっくり観察して色などいろんな共通点を見つけられたので良かったです。